

精神科領域専門医研修プログラム *

■ 専門研修プログラム名：高知大学病院連携施設 精神科専門医研修プログラム

■ プログラム担当者氏名：上村直人

住 所：〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 185-1

電話番号：088-880-2359

F A X：088-880-2360

E-mail：kamimura@kochi-u.ac.jp, im28@kochi-u.ac.jp

■ 専攻医の募集人数：(15) 人

■ 応募方法：

履歴書を Word または PDF の形式にて、E-mail にて提出すること。

電子媒体でのデータのご提出が難しい場合は、郵送にて提出すること。

・E-mail の場合：kamimura@kochi-u.ac.jp 宛に添付ファイル形式で送信。

その際の件名は、「高知大学精神科専門医研修プログラムへの応募」とする。

・郵送の場合：〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 185-1 高知大学精神科医局研修プログラム統括責任者宛に、ご自身で簡易書留にて郵送すること。また、封筒に「専攻医応募書類在中」と記載する。

■ 採用判定方法：

科長・医局長が履歴書記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。

I 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念（全プログラム共通項目）

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医としての知識・技術・態度を高めることのできるすぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、国民の信頼にこたえることを理念とする。

2. 使命（全プログラム共通項目）

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

3. 専門研修プログラムの特徴

高知大学医学部精神科は昭和 53 年に講座開設以来 30 年という比較的新しい医局です。一方で初代精神科教授である池田久男が基礎と臨床研究に力を入れ、高知県内全般に精神科医を養成して、ほとんどの精神科病院に医師を派遣しています。また、医局出身者の中には開業をし、現在も市中の臨床現場で活躍している同門も多数育っています。二代目教授である井上新平は統合失調症の臨床研究、特に心理教育に力をいれ、その手法は全国的にも臨床や研究として普及しています。そして大学医局で研修医として研鑽を積んだ同門が全国各地にも広がり、高知大学での臨床研究とその成果は全国的にも広く知られるようになりました。さらに平成 30 年 1 月に新たに数井裕光教授が赴任し、これまでの当大学精神科で培ってきた基礎研究と同時に臨床研究や多施設との交流を更に発展させていこうとしています。

このように臨床から研究に至る幅広い領域において精神医学の発展に大きな功績を残し、現在も日本の精神医療を牽引する存在として、医局員は幅広い領域で活躍しています。

基幹病院となる高知大学の精神科は、大学病院精神科として 30 床のベッドを有し、開放病棟として運用をしています。もちろん保護室も有しており、精神科病床としての認可も受けているため、精神保健指定医の取得も可能です。大学病院では 1~2 年間の研修期間中、主として病棟主治医として患者を受け持ち、精神科医として最も重要な基礎的能力を育成します。症例の傾向としては、難治例、身体合併症例などほとんどのケースに対応しており、幅広い研修が可能です。具体的には専攻医は入院患者の主治医となり、上級医の指導を受けながら、看護、心理、リハビリテーションの各領域とチームを組み、各種精神疾患に対し生物学的検査・心理検査を行い、薬物療法、精神療法、修正型電気療法などの治療を柔軟に組み合わせ最善の治療を行います。研修の過程でほとんどの精神疾患、治療についての基礎的な知識を身につけることが可能です。

また、高知県立あき総合病院、高知医療センター、近森病院といった総合病院精神科、土佐病院、細木ユニティ病院、藤戸病院、海辺の杜ホスピタル、南国病院といった市中精神科病院、一陽病院、芸西病院、清和病院、同仁病院、渡川病院といった僻地を含んだ高知県内すべてをほぼ網羅したエリアの主要医療機関を連携施設として有しており、専攻医はこれらの施設をローテートしながら研鑽を積み、臨床精神科医としての実力を向上させつつ、専門医を獲得することが可能です。さらに、児童思春期や認知症の専門医療機関、精神保健行政機関、単科精神科病院とも連携しており、希望に応じてこれらの施設での研修を行うことにより、さらに幅広い知識を習得することが可能となります。

精神医学は、極めて幅広い領域を包含しており、そこには生物学的、心理学的、社会的な次元に加え、実存的・哲学的問題も関与しています。したがって、複雑を極める精神現象を理解して、治療するため、乳幼児から児童・思春期、壮年期、老年

期に至る人間のライフステージすべてに研究のメスを入れ、アプローチも脳科学、分子遺伝学、精神病理学、心理学、社会学など多岐に亘る分野です。そのため、当プログラムでは高知大学の同門会にも協力を得て、中身の濃い講義の機会や、国内屈指の講師陣を迎える専門医養成講座もあるため、都市部での研修に決して引けを取らない臨床研修の経験と、専門医となるための学習の場が確保されており、このような多様な臨床経験と、最先端の精神医療を学べるのが、高知大学精神科の研修プログラムの特色です。

II. 専門研修施設群と研修プログラム

1. プログラム全体の指導医数・症例数

- プログラム全体の指導医数： 42 人
- 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数：20571

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	1999	640
F1	403	107
F2	4887	1341
F3	4981	623
F4 F50	3394	244
F4 F7 F8 F9 F50	1631	138
F6	125	50
その他	0	8

2. 連携施設名と各施設の特徴

A 研修基幹施設

- ・施設名：高知大学病院
- ・施設形態：公的病院
- ・院長名：執印太郎
- ・プログラム統括責任者氏名：數井裕光
- ・指導責任者氏名：上村直人
- ・指導医人数：(6) 人
- ・精神科病床数：(30) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	277	28
F1	15	3
F2	278	48
F3	503	16
F4 F50	439	36
F4 F7 F8 F9 F50	291	8
F6	17	1
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は613床を有する大規模な病院であり、精神科は30床です。高度専門医療機関として、主に難治性の症例を中心に統合失調症（F2）、気分障害（F3）、神経症性障害（F4）などの治療にあたっている。また思春期症例、認知症、身体合併症治療、リエゾン・コンサルテーションなど精神科臨床を幅広く経験できることも特徴です。特にがん患者の心理社会的問題については、全国トップクラスのがん診療連携拠点病院との合同症例検討会に定期的に参加することで、より深いレベルで多様な経験を積むことが可能です。難治性のうつ病に対する電気けいれん療法も積極的に取り組んでおり、高知工科大学との基礎的・臨床的研究にも取り組んでいます。また、精神療法の習得にも力を注いでおり、認知行動療法、精神分析・精神力動のカンファレンス、セミナーを定期的を開催しています。その他には発達障害の診断・療育を専門とするこどものこころ診療部を精神科と小児科と合同で取り組んでおり、世界的にも著明なイエテボリ大学児童精神科、クリストファー・ギルバーグ教授の支援を受けた高知ギルバーグセンターとの共同研究にも取り組んでいます。地域医療への貢献としては高知県から認知症疾患医療センターの委託を受け、認知症に対する診断、治療、ケアなどの普及啓発活動も行っています。その他、基幹型で習得しにくい措置症例や精神科救急、医療観察法に関する精神科医療は連携施設と協力して経験ができるなど高知大学はほぼ高知県内すべての精神科医療機関と連携をしているため、きめ細やかで、急性期から慢性期にまで至る長い視点での精神科医療やその際に必要な技量を学べる場所であると言えます。また最先端の知識を獲得するため、全国の一流の研究者を招聘し、定期的に講義を開催し学習機会を既に20年近く確保しており、専門医になってからの活躍の場を広げることができる研修環境であることも特徴です。

病院ホームページ URL : <http://www.kochi-ms.ac.jp/~hspt1/>

精神科ホームページ URL : http://www.kochi-ms.ac.jp/~fm_nrpsy/index.htm

B 研修連携施設

① 施設名：土佐病院

- ・施設形態：精神科単科病院
- ・院長名：須藤康彦
- ・指導責任者氏名：岡村佳代子
- ・指導医人数：(4) 人
- ・精神科病床数：(180) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	のべ外来患者数(年間)	新入院患者数(年間)
F0	65	24
F1	47	18
F2	872	239
F3	226	62
F4 F50	182	18
F4 F7 F8 F9 F50	55	7
F6	20	2
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、昭和8年に高知市中央圏に開設された中核病院であり、昭和53年に大学病院が開設される以前から、高知県内の精神科医養成を行ってきた教育病院である。現在、180床を有する単科精神科病院となり、県内で平日精神科救急に10数年取り組む地域の基幹病院である。また30年来、高知大学精神科の学生実習協力病院であり、これまで一貫して医学部学生から専攻医までの精神科臨床の実習教育の経験がある施設である。そのため、統合失調症を中心とする超急性期、急性期、慢性期という病態別の治療と、精神リハビリテーションに関する研修が充実している。さらに精神科救急事業を行っていることから急性期の精神科研修とリハビリテーションという慢性期の精神科研修を経験できる。症例数は豊富である。また医療観察法に関する認定施設であることや、指導医には児童思春期の専門外来にも取り組んでいることから幅広い精神科研修が可能である。

病院ホームページ URL：<http://www.tosa-hp.com/>

② 施設名：高知県立あき総合病院

- ・施設形態：公的総合病院

- ・ 院長名：前田博教
- ・ 指導責任者氏名：峯瀬正祥
- ・ 指導医人数：（ 1 ） 人
- ・ 精神科病床数：（ 90 ） 床
- ・ 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	178	27
F1	13	4
F2	309	108
F3	228	27
F4 F50	205	9
F4 F7 F8 F9 F50	79	5
F6	3	0
その他	0	0

- ・ 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は公的病院としては比較的珍しい 90 床の精神科ベッドを持つ総合病院です。高知県唯一の県立病院精神科であり、難治症例や処遇困難例を多く引き受けています。総合病院にあるため、多くの身体合併症治療の経験をすることができます。また、リエゾンチームを率いて、身体科での精神障害の相談業務や治療に参加できます。平成 28 年度より、一般病院連携精神医学専門研修プログラムに参加予定です。

高知県東部地域の精神科救急医療も可能な限り対応しております。措置入院患者の受け入れも行っています。医療観察法鑑定入院や通院処遇対象者の治療を引き受けています。認知症疾患医療センター地域型を有し、専門的な治療、教育、地域への宣伝活動などを行っています。小児科と共同で児童症例を見ることもあります。

まとめると、難治性の症例を中心に統合失調症（F2）、気分障害（F3）、神経症性障害（F4）などの治療にあたっている以外に、認知症、身体合併症治療、リエゾン・コンサルテーションなど精神科臨床を幅広く経験できることが特徴です。

病院ホームページ URL：<http://www.pref.kochi.lg.jp/aki/>

③ 施設名：高知医療センター

- ・ 施設形態：公的総合病院精神科

- ・ 院長名：島田雅博
- ・ 指導責任者氏名：澤田健
- ・ 指導医人数：(2) 人
- ・ 精神科病床数：(44) 床
- ・ 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	39	0
F1	10	0
F2	43	0
F3	86	2
F4 F50	161	5
F4 F7 F8 F9 F50	486	16
F6	2	0
その他	0	0

- ・ 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

県の高度医療、救急医療を担う公的総合病院であり、44床の精神科病棟を有するリエゾン精神医学の症例が豊富で、入院に伴い新しく発症した精神障害を診療することも多い。もともと精神障害を有していた患者の身体合併症の治療にも取り組んでいる。児童精神科では外来診療のみでなく、入院診療も行っており、掘り下げた研修を行うことが出来る。

病院ホームページ URL：<http://www2.khsc.or.jp/info/subtop.php?SID=2006>

④ 施設名：一陽病院

- ・ 施設形態：精神科単科病院
- ・ 院長名：諸隈陽子
- ・ 副プログラム責任者氏名：諸隈陽子
- ・ 指導責任者氏名：大石りさ
- ・ 指導医人数：(2) 人
- ・ 精神科病床数：(218) 床
- ・ 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	170	84
F1	1	10
F2	155	87
F3	191	20
F4 F50	122	6
F4 F7 F8 F9 F50	0	0
F6	1	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

地域密着型の単科精神科病院であるが、2次医療県内唯一の入院病床を持つ僻地医療の中心的役割を担う施設です。新規初診患者は認知症患者が増加していますが、全体としては統合失調症の患者さんの比率が多く、高齢化した統合失調症患者さんの薬物治療の他、心理教育や地域移行のため福祉ホームやグループホームも併設しており、社会復帰プログラムも充実しています。また、僻地の総合病院へのリエゾン対応も多く、総合的な精神科研修が可能です。またH26年度から県から認知症疾患医療センター（地域型）を委託され、認知症患者を含めた精神科患者のアウトリーチや訪問看護も積極的に行っている。

病院ホームページ URL：<http://www.ichiyo-hp.jp/>

⑤ 施設名：近森病院

・施設形態：総合病院精神科

・院長名：近森正昭

・指導責任者氏名：明神和弘

・指導医人数：(3)人

・精神科病床数：(60)床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	43	6
F1	29	12
F2	608	89
F3	1094	131
F4 F50	522	57

F4 F7 F8 F9 F50	100	14
F6	31	15
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

県中央部に位置し、ヘリポート施設を備えた救命救急センターをもつ総合病院の中の精神科です。当施設では救命救急センターを併設していることから急性期の精神科患者さんから働く人のためのうつ病の社会復帰プログラムに特化したデイケアを運営するなど急性期から回復期までまんべんなく精神科患者さんの治療場面の研修が可能です。また、総合病院という意味からリエゾン対応も多く、多職種連携やチーム精神医療の素養を涵養することでこれまで多くの実績があります。また、院内での各種勉強会や学術講演会の開催も多く、学術的な支援も豊富であり実り豊かな精神科研修が可能です。

病院ホームページ URL : <http://www.chikamori.com/>

⑥ 施設名：細木ユニティ病院

・施設形態：精神科単科病院

・院長名：吉川賢一

・指導責任者氏名：吉川賢一

・指導医人数：(3) 人

・精神科病床数：(152) 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	50	40
F1	0	0
F2	660	90
F3	180	50
F4 F50	10	8
F4 F7 F8 F9 F50	45	4
F6	0	8
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当施設は細木病院という総合病院に併設された 152 床の単科精神科病院である。

指導医は 3 名と充実しており、元大学教授も常勤医師として勤務しており研修や研究的指導も充実している。また精神科内に内科医が常勤医師として勤務しており、身体合併症をもつ精神科患者の治療や精神科患者に対する内科的研究や教育も積極的に行っている。以上から、精神科患者の病態は児童思春期から認知症まで様々な精神科疾患を全般的に網羅した研修が可能である。

病院ホームページ URL : <http://www.h-unity.com/>

⑦ 施設名：芸西病院

- ・施設形態：精神科単科病院
- ・院長名：岩村 久
- ・指導責任者氏名：戎 正司
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(171) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0	85	27
F1	20	2
F2	120	77
F3	105	6
F4 F50	95	1
F4 F7 F8 F9 F50	65	3
F6	2	0
その他	0	0

- ・施設としての特徴 (扱う疾患の特徴等)

内科を併設した精神科病院であり、身体合併症をもつ高齢者の入院も多い。指導医として精神分析的な精神療法を指導することが可能であり、じっくりとした研修が保障されている。また、併設する老人保健施設、精神科訪問看護、グループホームなど多職種連携や地域精神医療の研修の機会が非常に多く、看護部門は県内有数の精神科専門看護師数を誇る。したがって研究発表や、院内研究会、研修会が充実しており幅広い臨床研修と併せて、臨床研究も活発に行っていることが特徴である。

病院ホームページ URL : <http://www.mizukikai.or.jp/>

⑧ 施設名：海辺の杜ホスピタル

- ・施設形態：精神科単科病院
- ・院長名：岡田和史
- ・指導責任者氏名：岡田和史
- ・指導医人数：(5) 人
- ・精神科病床数：(380) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	317	119
F1	75	37
F2	332	129
F3	224	44
F4 F50	314	29
F4 F7 F8 F9 F50	138	22
F6	10	2
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

県内有数のベッド数の単科精神科病院であるが、サテライトの精神科クリニックを同じ法人内に持っており、地域移行や精神科リハビリテーションに積極的な活動を行っており、精神科リハビリテーションにも重点を置いています。また、家族心理教育や精神科アウトリーチ、医療観察法による地域移行支援施設として認定されており、司法精神医学の分野も学ぶことが可能である。

病院ホームページ URL：<http://umibeno-mori.com/>

⑨ 施設名：南国病院

- ・施設形態：精神科一般病院
- ・院長名：中澤宏之
- ・指導責任者氏名：中澤宏之
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(60) 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	55	29
F1	19	2
F2	258	56
F3	256	24
F4 F50	230	5
F4 F7 F8 F9 F50	97	7
F6	4	1
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

精神疾患全般を扱っているが、認知症を含む器質性精神障害、老年期精神障害、児童思春期の指導体制が充実している。また神経内科専門医や神経内科専門の病棟を持っているため、神経症状を伴う精神疾患の症候学や診断学も学ぶことができる。

病院ホームページ URL : <http://www.nankoku-hp.or.jp/>

⑩ 施設名：藤戸病院

・施設形態：精神科単科病院

・院長名：橋詰 宏

・指導責任者氏名：橋詰 宏

・指導医人数：(2) 人

・精神科病床数：(80) 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	40	10
F1	20	5
F2	560	120
F3	600	100
F4 F50	600	40
F4 F7 F8 F9 F50	120	20
F6	30	20
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

市中にある単科精神科病院です。これまで当施設は児童思春期症例を積極的に治療しており、県下的にも非常に児童思春期の症例数が経験できます。また精神障害者で働く人のための夜間診療も先進的に取り組んでおり、産業精神保健などの領域も多数経験できます。また、高知大学から非常勤医師として児童思春期の専門医 2 名が勤務しているため、指導医からの指導以外にも研究指導や症例検討会など活発な活動が可能です。

病院ホームページ URL：<http://www.fujito-hsp.or.jp/>

⑪ 施設名：清和病院

- ・施設形態：精神科単科病院

- ・院長名：近藤近江

- ・指導責任者氏名：山内祥豪

- ・指導医人数：(4) 人

- ・精神科病床数：(271) 床

- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	275	80
F1	77	10
F2	183	110
F3	376	44
F4 F50	199	4
F4 F7 F8 F9 F50	44	5
F6	1	0
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

高知県中西部の中核病院であり、特にうつ病の電気けいれん療法は大学病院以外では当施設しか施行していないため、亜混迷や自殺企図を伴う急性期のうつ病治療を積極的に行っている。また地域の精神科中核病院であり、デイケアなどの社会復帰や地域精神医療を担っておる観点から、回復期から慢性期の精神障害者のリハビリテーションの研修が充実しています。大学病院から非常勤として教官が勤務しており、家族心理教育を積極的に行っていることから、研究活動もやる気次第で限りなく可能な環境です。また、院長が外科医ということもあり、身体合

併症を持つ精神障害者の身体疾患も行っており、地域連携、病病、病診連携を通じた精神科リエゾン活動や合併症治療も多数経験できます。

病院ホームページ URL : <http://www.seiunkai.com/>

⑫ 施設名：同仁病院

- ・施設形態：精神科単科病院
- ・院長名：山下元司
- ・指導責任者氏名：猪谷健
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(214) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	130	77
F1	0	0
F2	326	129
F3	536	72
F4 F50	116	26
F4 F7 F8 F9 F50	67	14
F6	3	1
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は昭和36年に開設された精神科を中心とした地域の中核病院です。常勤内科医師が勤務しており身体疾患の治療や、精神障害者の身体合併症の治療を行なうことができます。精神疾患の中では気分障害、器質性精神障害、統合失調症の患者を多く治療しています。検査機器として1.5t MRI, 16列X線CTを備えており、器質性精神障害や身体疾患の診断を行うことができます。デイケア、ナイトケア、グループホーム運営など外来診療、リハビリテーションにも力を入れています。地域包括支援センターや老人施設等と連携した診療活動も行っています。

病院ホームページ URL : <http://doujin-hp.or.jp>

⑬ 施設名：渡川病院

- ・施設形態：精神科単科病院
- ・院長名：吉本啓一郎

- ・指導責任者氏名：野瀬清一郎
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(180) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	275	89
F1	77	4
F2	183	59
F3	376	25
F4 F50	199	0
F4 F7 F8 F9 F50	44	13
F6	1	0
その他	0	8

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

高知県西南部の中核病院であり、地域型認知症疾患センターを併設しています。認知症をはじめとする高齢者の他にも、慢性期の統合失調症のデイケア活動や発達障害のリハビリテーションにも取り組むなど、地域において幅広い精神医療を担っています。身体合併症を持つ精神障害者の応需や、精神科訪問看護活動も精力的に行っており地域リハビリテーションの研修が充実しています。

病院ホームページ URL：<http://watarigawa.com/>

3. 研修プログラム

全体的なプログラム

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得します。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要があり、1. 患者及び家族との面接、2. 疾患概念の病態の理解、3. 診断と治療計画、4. 補助検査法、5. 薬物・身体療法、6. 精神療法、7. 心理社会的療法など、8. 精神科救急、9. リエゾン・コンサルテーション精神医学、10. 法と精神医学、11. 災害精神医学、12. 医の倫理、13. 安全管理などです。年次毎のおおよその到達目標は以下の通りです。

1) 年次到達目標

到達目標

1 年目：基幹病院または連携病院で指導医の指導のもと統合失調症、気分障害、不安症、認知症などの、主に入院患者を受け持ち、精神症状評価、診断と治療計画の

策定を通して精神療法と薬物療法を両軸とした精神科治療の基本を習得する。実際の面接についてスーパーヴァイズを受け良好な治療関係を構築し、維持する力を養うと共に、より正確な診断/見立てにつなげる能力を養う。認知行動療法、精神分析や緩和ケアの研修会/カンファレンスへの参加を通してサブスペシャリティ領域について学ぶことも可能である。また、多職種間のカンファレンスを通してチーム医療に対する基本的姿勢や素養を身につける。

2 年目：基幹病院または連携病院で、指導医のサポートのもとで自立して患者との面接を行い、診断と治療計画の策定が出来る能力の充実とより深い薬物療法の知識を習得する。また児童思春期症例、種々の依存症や摂食障害など、よりマネジメントの難しい症例の治療やリハビリテーションに関わる。さらに精神科救急では、連携病院の精神科救急を経験し、超急性期対応から安定化期、安定期、回復期に至るプロセスを学ぶ。

3 年目：指導医から自立し、入院治療に加えて外来治療を本格的に開始し、多職種間連携、心理社会的介入を通じた精神科患者の生活をサポートする方略を策定できることを目指す。認知行動療法や力動的療法を上級者の指導の下に実践する。連携病院はより幅広い選択肢の中から専攻医の志向を考慮して選択し、リワークを含む精神科リハビリテーションプログラム、地域精神医療等の幅広い視野をもつことを目標とする。その上で、精神科分野の専門医の素養を学ぶ総まとめを行いながら精神科専門医を目指し、専門医試験の準備に取り組むことを学ぶ。

2) 研修カリキュラムについて

専攻医研修マニュアル（別紙）、研修記録簿（別紙）を参照

3) 個別項目について

① 理論性・社会性

基幹施設において他科の専攻医とともに研修会が実施される。コンサルテーションリエゾンを通して身体科との連携を持つことによって医師としての責任や社会性、倫理観などについても多くの先輩や他の医療スタッフからも学ぶ機会を得ることができる。

② 学問的姿勢

すべての研修期間を通じて与えられた症例を院内の症例検討会で発表することを基本とし、その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの姿勢を心がける。その中で特に興味ある症例については、地方会等での発表や学内誌などへの投稿を進める。

③ コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、1) 患者関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) 症例プレゼンテーション技術、5) 医療における社会的・組織的・倫理的側

面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾン・コンサルテーションといった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指す。

④ 学術活動（学会発表、論文の執筆等）

基幹施設において臨床研究、基礎研究に従事しその成果を学会や論文として発表する。

⑤ 自己学習

DVD や各種精神医学に関連する専門書などをもとに自己学習を行う。

4) ローテーションモデル

原則的には1年目に基幹病院である大学病院をローテートし、精神科医としての基本的な知識を身につけます。2～3年目には総合病院精神科（高知医療センター、高知県立あき総合病院、近森病院）、単科精神科病院（土佐病院、細木ユニティ病院、芸西病院、藤戸病院、一陽病院、清和病院、海辺の杜ホスピタル、南国病院、同仁病院、渡川病院）を各1年ずつローテートし、身体合併症治療、難治・急性期症例、児童症例、認知症症例を幅広く経験し、精神療法、薬物療法を主体とする治療手技、生物学的検査・心理検査などの検査手法、精神保健福祉法や社会資源についての知識と技術を深めていきます。これら3年間のローテート先や順番については、本人の希望に応じて柔軟な対応が可能です。

さらに、今回記載した連携施設以外に本人の希望に応じて、多彩なローテートパターンが可能です。この場合、1・2年目に基本となる基幹病院、総合病院、単科精神科病院の中から2ヶ所を各1年ずつ、3年目は、上述の専門機関の中から本人の志向にあわせた研修先を選定するなど、主なローテーションパターンについて、**別紙1**に示しています。

5) 研修の週間・年間計画

別紙2を参照。

4. プログラム管理体制について

・プログラム管理委員会

- 委員長 医師：上村直人・高知大学精神科（講師）
- 医師：掛田恭子・高知大学精神科（学内講師）
- 医師：須賀楓介・高知大学精神科（特任助教）
- 医師：赤松正規・高知大学精神科（助教）
- 医師：安岡江里奈・高知大学精神科（助教）
- 医師：大崎千栄・高知大学精神科（特任助教）
- 大学病院精神科看護師長：吉田優子
- 大学病院精神保健福祉士（精神担当）：高橋武史

- 医師：諸隈陽子・一陽病院（院長）
- 医師：峯瀬正祥・高知県立あき総合病院精神科（医長）
- 医師：戎正司・芸西病院（医師）
- 医師：中澤宏之・南国病院（院長）
- 医師：明神和弘・近森病院総合心療センター（センター長）
- 医師：澤田健・高知医療センターこころのサポートセンター（センター長）
- 医師：岡村佳代子・土佐病院（副院長）
- 医師：吉川賢一・細木ユニティ病院（院長）
- 医師：山内祥豪・清和病院（医師）
- 医師：橋詰宏・藤戸病院（院長）
- 医師：岡田和史・海辺の杜ホスピタル（院長）
- 医師：同仁病院：山下元司
- 医師：渡川病院：吉本啓一郎

- ・プログラム統括責任者

数井裕光

- ・連携施設における委員会組織

各連携病院の指導責任者および実務担当の指導医によって構成される。

5. 評価について

1) 評価体制

高知大学医学部附属病院：上村直人

土佐病院：岡村佳代子

高知医療センターこころのサポートセンター：澤田健

高知県立あき総合病院：峯瀬正祥

芸西病院：戎正司

南国病院：中澤宏之

一陽病院：大石りさ

近森病院：明神和弘

細木ユニティ病院：吉川賢一

海辺の杜ホスピタル：岡田和史

藤戸病院：橋詰宏

清和病院：山内祥豪

同仁病院：山下元司

渡川病院：吉本啓一郎

2) 専攻医の評価時期と評価方法

- ・ 3 ヶ月ごとにカリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認しその後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。
- ・ 研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ 6 ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。
- ・ 1 年後に 1 年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。また、その結果を統括責任者に提出する。
- ・ その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。
- ・ 研修終了時の専攻医の評価項目、基準、時期については、専攻医研修マニュアルを用いて、研修終了時に習得すべき疾患群毎の症例数などを最終年度にプログラム委員会で評価し、精神科専門医としてふさわしいかの判定を行い研修終了の可否を決定する。
- ・ 評価方法
A:優れている B:十分 C:ふつう D:やや不十分の 4 段階で指導医が評価する。
研修達成度は研修群の指導医で構成されるプログラム管理委員会で 3 ヶ月ごとに行い、年度ごとに次年度の目標や課題を指導医と協議する。

3) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価方法と評価時期については、アンケートによる指導医の評価を各年度毎に行い、研修プログラム委員会で指導医にフィードバックを行う。評価は、A：十分指導を受けている、B：標準的な指導を受けている、C：標準以下の指導体制である、D：指導は不十分である、の 4 段階で行う。

3) 研修時に則るマニュアルについて

専攻医研修マニュアル（別紙）、研修記録簿（別紙）をもとに研修を行う。

6. 全体の管理運営体制

1) 専攻医の就業環境の整備（労務管理）

各施設の労務管理基準に準拠する。

2) 専攻医の心身の健康管理

各施設の健康管理基準に準拠する。

3) プログラムの改善・改良

基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。

4) F D の計画・実施

年 1 回、プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況を評価する。

プログラム問い合わせ先

プログラム担当者氏名：上村直人（かみむらなおと） 高知大学医学部精神科

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 185-1

電話番号： 088-880-2359

F A X： 088-880-2360

E-mail： kamimura@kochi-u.ac.jp, im28@kochi-u.ac.jp